

長崎市立橘中学校 学校だよりHP

「海風Ⅱ」

第5号 令和6年7月17日(水)

文責 校長 井上博之



3-3 文化部 制作

○ 長崎市中学校総合体育大会の主な結果(第4号のつづき)

【卓球】 個人シングル:優勝(県大会)

【水泳】(3位入賞以上)

○団体女子総合 準優勝 ○団体男子総合 3位

○県大会出場選手

50m自由形-2位 100m平泳ぎ-2位

200m背泳ぎ-1位、3位2名 100m背泳ぎ-1位、3位

800m自由形-3位 200mバタフライ-3位

100m自由形-1位 200m個人メドレー-3位

200m自由形-1位 400m自由形-3位

共通 4×100mフリーリレー-2位

共通 4×100mメドレーリレー-3位

共通 4×100mフリーリレー-3位、メドレーリレー-3位

○入賞

1年 4×50mフリーリレー-3位、メドレーリレー-3位



今年度は35人が各種目で県大会(7/21~23)へ出場します。長崎市の代表として、全力を尽くしてそれぞれの目標を達成してほしいと思います。県大会出場選手については、終業式(7/19)終了後に、県大会出場選手激励式を実施します。

次の大会へ進む人も、今回の大会で競技を離れる人も、結果から「何を学んだか」そして「これからどう行動するか」が大切だと思います。常に経験から多くを学び、前を向き、今できることに全力で打ち込んでほしいと願っています。

○ 定期テスト

6月20日(木)~21日(金)に定期テストが行われました。今回のテストは国・社・数・理・英と、技術家庭(1,2年)での実施でした。4月からこれまで学習した内容で、授業での理解度を確認します。1年生にとっては中学校で初めてのテストで緊張したかもしれません。どの学年も、どの教科も、1時間1時間の授業を大切に、家庭学習をしっかりと行い「粘り強く考える力」を身に付けてほしいと思います。

テストでよく理解できていない部分が見つかったら、必ず復習し、友達や先生に聞いて補充を行うことが大切です。今、取り組んでいることが、必ず1年後、2年後、3年後の自分の姿に大きく影響してきます。勉強は、明確な目標と、目標に向けた1日1日の地道な積み重ねが必要不可欠です。

○ 命と性の学習会(講演会)を行いました

6月28日(金)の5,6校時に外部講師を招いて、2年生と3年生を対象にした「性に関する学習会」を体育館で行いました。今回の講師は、看護師・思春期保健相談士であり、日本思春期学会認定

性教育講師である、中山安彩美様にお願いしました。教育週間の公開講座として、保護者の方にもご参加いただきました。

内容は、思春期について、二次性徴、性に関する感染症などの話を、生徒に図解しながらわかりやすく説明されました。避妊や性感染症の話もあり、最後に簡単な実験(感染)も行っていました。椅子を準備して 60 分間の講話でしたが、照れや恥ずかしさもあるのか、全体的に落ち着かない雰囲気でした。しかし、フィクションをうのみにせず、正しい知識と判断が必要なこと、自分と相手の命や思いも大切に考え、先のことを考えた責任ある行動をとることについて、考える良い機会となりました。



○ 1 年生「平和さるく」

7 月 1 日(月)に、1 年生が長崎市内の被爆遺構を巡る「平和さるく」を行いました。この行事の目的は、①長崎市の被爆遺構を見学し、事実を知り、平和を学ぶ姿勢を養うこと。②平和案内人の話を聞き、平和を希求する思いに触れ平和を守り続けようとする態度を養うこと。③校外での活動をとおしてマナーや社会性を身に着けさせること。です。あいにくの天候でしたが、バスに分乗して爆心地公園や原爆資料館、平和祈念館等を中心に被爆の実相に触れました。生徒は案内人の方の話を真剣に聴きながら、メモをとっていました。平和について真剣に考える貴重な機会となりました。



○ 被爆講話

7 月 2 日(火)5 校時に、講話者を招いて被爆講話を行いました。今回は 1 年 4 組で講話をしていただき、それをその他の全クラスにリモート配信しました。

今回の講話者は、久家江光子様に お願いしました。久家様は、【交流証言者】として、実際に被爆体験をされた「田川博康さん、被爆当時 12 歳」から直接、被爆体験やその後の生活等について聞き取りを行い、それをわかりやすく私たちにお話していただきました。

司会進行は平和実行員が行い、スムーズな進行で実施できました。最後に講話者へ花束を贈呈しました。

特に 1 年生は前日に「平和さるく」で被爆遺構を巡り、案内人の方のお話も聞いていたので、平和への思いをさらに深めることができました。

田川さんは当時、爆心地付近で被爆され、両親を探して悲惨な惨状を見ながら歩き、再会するも、ケガや原爆の影響で次々とご両親を亡くされました。その心情を思うと、心が引き裂かれるようなつらい体験だったと想像します。それを乗り越え、その体験を交流表現者をとおして私たちに伝えていただきました。この貴重な体験談を子どもたちが心に刻み、次の世代に語り継ぎながら、平和な世界のために努力してくれることを心から願っています。

平和な社会、世の中は、ただ待っているだけでは実現しません。まず、私たちの日々の生活の中で差別や偏見をなくし、人権を尊重し、多様性を理解できるよう努力を続けていくことが必要だと思います。全ての人が安心して幸せな生活ができる世の中を作りたいと思います。

